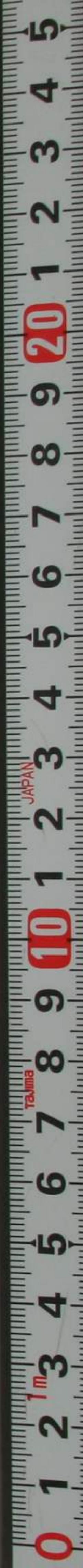


繪本東土産

13
1464
11



明 13
1.464
卷 11

馬琴今作
法茶漬

北尾政演之画
六



以東子亦士能著述取部
編了あこ幸卷十本上方風乃厚表
家と亦し了東能こやが裏と凡上可能
通不通以亦我つ是を貴し
遂に二編不及亦我れが係を
了了了了了了編不阿之好

且よりゆゑに家々も集りて
 数る万部はなり一切藏經乃き
 むゝゝふ歎んて強習むと云
 たり月々序とたんに子吟云つ
 亥の未東山托子百川堂

御茶漬十二因縁

序小出中書

● 版元 いせ次
 ● 作者 馬琴

夫淳于髡が滑稽言は所謂日本の将口やく笑ひと蔚の
 種あり又元明の稗史を圓るに今吾朝の草雙紙
 それを思ひ月日星之光之みの三冊物今迄世の角
 りこれいせ次が家の彩板をおおきくくくくくくく
 顔油紙は鶴が啼ナント東路は化去世茶をい今を
 ちる人の茶初も爰もこれあそともこれ年世を踏
 作者の口も通さぬ巻畠中何そ通をいお子白く
 松定人お入りあもませり千ヤと云く



狼のいけりといふも
 ろまがうすよちかきやど
 ろーきめいあといふも
 かそろーいさかきれま
 ちふくさうめらかてい
 ちんはさう備あちこれ
 ろんくまかきも人かき
 さむさかあちかきと
 かんいあんがうかそ
 ののありいまもま
 くさるめいさかき
 ちんはさう備あちこれ
 もこまてんちかき
 狼のいけり

狼為人食 日用
 食性

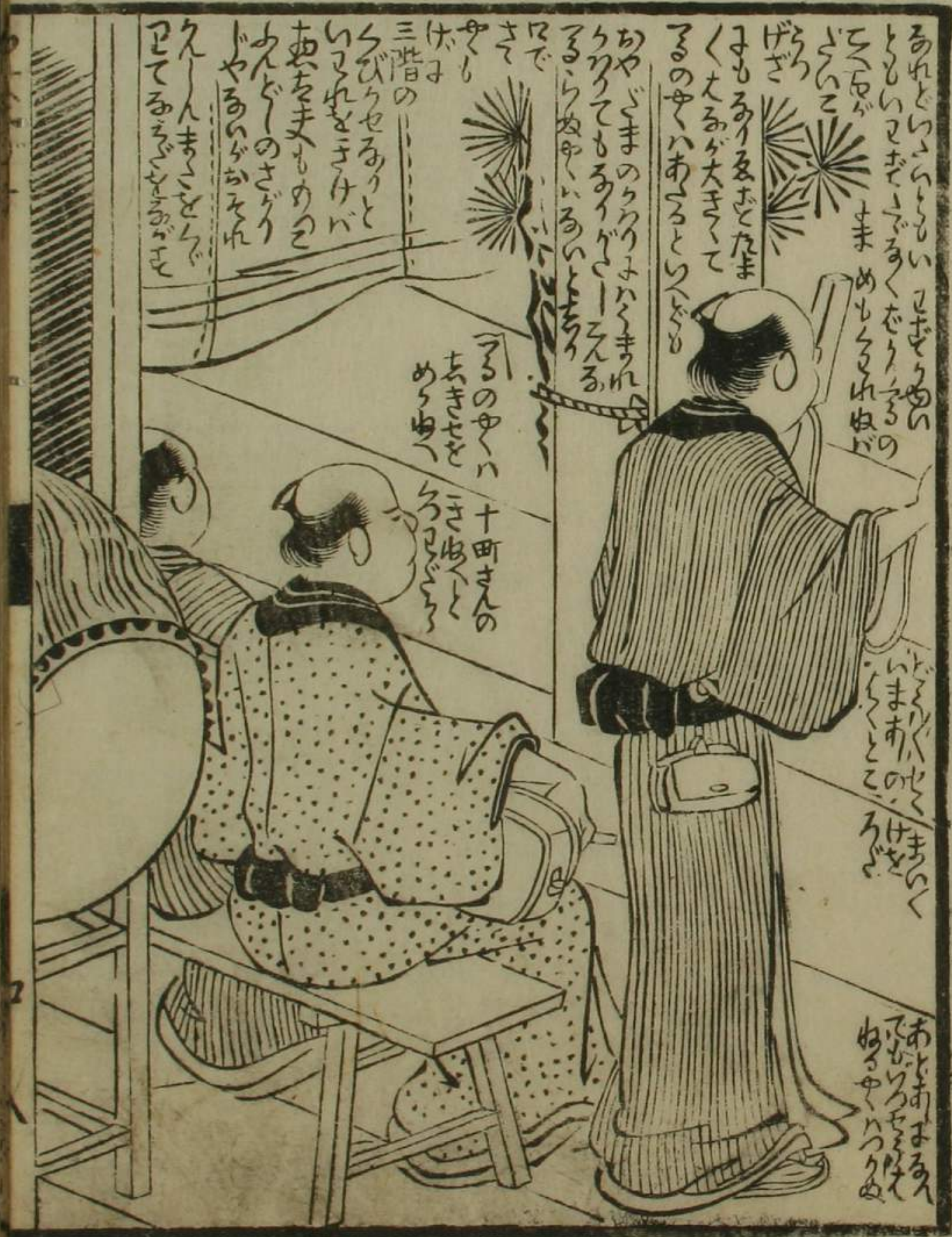
狼のいけりといふも
 ろまがうすよちかきやど
 ろーきめいあといふも
 かそろーいさかきれま
 ちふくさうめらかてい
 ちんはさう備あちこれ
 ろんくまかきも人かき
 さむさかあちかきと
 かんいあんがうかそ
 ののありいまもま
 くさるめいさかき
 ちんはさう備あちこれ
 もこまてんちかき
 狼のいけり



ちんはさう備あちこれ
 ろんくまかきも人かき
 さむさかあちかきと
 かんいあんがうかそ
 ののありいまもま
 くさるめいさかき
 ちんはさう備あちこれ
 もこまてんちかき
 狼のいけり

一頭定六 山海經

狼のいけりといふも
 ろまがうすよちかきやど
 ろーきめいあといふも
 かそろーいさかきれま
 ちふくさうめらかてい
 ちんはさう備あちこれ
 ろんくまかきも人かき
 さむさかあちかきと
 かんいあんがうかそ
 ののありいまもま
 くさるめいさかき
 ちんはさう備あちこれ
 もこまてんちかき
 狼のいけり







三ヶ月前の日に上子也をまも
りててつらりとこれた月夜をま
まののたむけのふんひつら
ぬまを下つてふとま
かされてたけのこま
いふのまにひひ
のまをいふまは
子あまこまは
あまこまは
いふのまにひひ

いふのまにひひ
あまこまは
あまこまは
あまこまは

あまこまは
あまこまは
あまこまは



くろがものまにひひ
あまこまは
あまこまは
あまこまは

あまこまは
あまこまは
あまこまは

あまこまは
あまこまは
あまこまは

あまこまは
あまこまは
あまこまは

人化而為獅子 三箇





哀憐化而為盲 盛表 記

そのこころをたづねてみるに
 眼目 録とらふのあり
 そのこころをたづねてみるに
 眼目 録とらふのあり

そのこころをたづねてみるに
 眼目 録とらふのあり
 そのこころをたづねてみるに
 眼目 録とらふのあり

八百や
 こころの
 ませ
 めり



平家 取次所
 位子番
 上総屋七兵衛景清

史記列傳 位子番曰 以我眼
 懸吳東門 我其見必越 在
 來盛表 記景清曰

このまをこころけりけるよとあり
 ちれていまへひくこころのあり

このまをこころけりけるよとあり
 ちれていまへひくこころのあり

大ホの十



あきつてゆきまは
しつらのるん
のちめい
ちちまぢりめ
山のやまひつ
らうらう
子このこせ入すあすてせうけ
ひんかくちいひひれふあま
いであうまてま不消んと月日
ていんあのととせよひさる
あちめひあたままごら
あさうまあひ山のま
ちうめつれいあまの
とこさけてうりう
あまをまはあま
くさうら
りうそれ
けめく不事
らうらうけうらう
あまをまはあま
このこせ入すあすてせうけ
まあうのこまこのこま
せうこの月日その月日の
は十つめい月日その月日

あきつてゆきまは
しつらのるん
のちめい
ちちまぢりめ
山のやまひつ
らうらう
子このこせ入すあすてせうけ
ひんかくちいひひれふあま
いであうまてま不消んと月日
ていんあのととせよひさる
あちめひあたままごら
あさうまあひ山のま
ちうめつれいあまの
とこさけてうりう
あまをまはあま
くさうら
りうそれ
けめく不事
らうらうけうらう
あまをまはあま
このこせ入すあすてせうけ
まあうのこまこのこま
せうこの月日その月日の
は十つめい月日その月日



まのかりふたた
らねはくふあ
あきつてゆきまは
しつらのるん
のちめい
ちちまぢりめ
山のやまひつ
らうらう
子このこせ入すあすてせうけ
ひんかくちいひひれふあま
いであうまてま不消んと月日
ていんあのととせよひさる
あちめひあたままごら
あさうまあひ山のま
ちうめつれいあまの
とこさけてうりう
あまをまはあま
くさうら
りうそれ
けめく不事
らうらうけうらう
あまをまはあま
このこせ入すあすてせうけ
まあうのこまこのこま
せうこの月日その月日の
は十つめい月日その月日

あきつてゆきまは
しつらのるん
のちめい
ちちまぢりめ
山のやまひつ
らうらう
子このこせ入すあすてせうけ
ひんかくちいひひれふあま
いであうまてま不消んと月日
ていんあのととせよひさる
あちめひあたままごら
あさうまあひ山のま
ちうめつれいあまの
とこさけてうりう
あまをまはあま
くさうら
りうそれ
けめく不事
らうらうけうらう
あまをまはあま
このこせ入すあすてせうけ
まあうのこまこのこま
せうこの月日その月日の
は十つめい月日その月日

わさけのそのとも
いづくせうん
あいのをどり
二半の二半のど
びのういせうい
あやのそとく又せうい
かどけのそくおせうい
のそく七半八半一申一斗は申と
をりまきうらひよりせうい入んを
けのあうがまそ三有六十日のそ
こそらとをけあめの二月三日と
をけらまけてせねそろのそめい
まをけるそろけのそあつて
たるとこもまひりうらうらあも
をけけのあへもまけの天下
松方舞ふるのありこまかちまわらけ
あまこいあつてあつてあつてあつて
ままこまかたは戸のそんこあつてあつて
さてあままはこころのまあこまもよも
とこもいさよ十一のせけけりそろよの
あ山子のあつてけいの子とまひりうら
よあひのうそ八百まきせん日か記のあつて内とあ
ねの内の上へいさよさそけのままいへんかつてあつて



馬琴今作

あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて

いづくせうん
あいのをどり
二半の二半のど
びのういせうい
あやのそとく又せうい
かどけのそくおせうい
のそく七半八半一申一斗は申と
をりまきうらひよりせうい入んを
けのあうがまそ三有六十日のそ
こそらとをけあめの二月三日と
をけらまけてせねそろのそめい
まをけるそろけのそあつて
たるとこもまひりうらうらあも
をけけのあへもまけの天下
松方舞ふるのありこまかちまわらけ
あまこいあつてあつてあつてあつて
ままこまかたは戸のそんこあつてあつて
さてあままはこころのまあこまもよも
とこもいさよ十一のせけけりそろよの
あ山子のあつてけいの子とまひりうら
よあひのうそ八百まきせん日か記のあつて内とあ
ねの内の上へいさよさそけのままいへんかつてあつて









